

旧約聖書を読んで感じること(28) 申命記(2)「モーセの信仰と神の啓示」

モーセがイスラエルに教えた**礼拝**は、とても楽しい、自由な礼拝でした。



カファルナウム シナゴグ遺跡

場所は、異教の神々が祀られている荘厳な雰囲気のある高い山の上でもなければ、茂る木々の下でもありません。また、たとえ、金銀で箔付されている壮麗な像でも、それに目を奪われてはならない。それらは異教の民が求める偶像に過ぎないと戒めています。

神の住まいは**主がその名を置くために全部族の中から選ばれる場所**(申12:5)であり、そこを尋ねよと教えています。それは共同体の皆が、それぞれの嗣業の地で、自由に選ぶことが出来る場所です。

そこに置くべきものは「主の名」であると教えているのです。ささやかな場所で良い。そこに皆が集まり、神の名を心に刻むだけで良いとしています。また、そこですべきことは、

焼き尽くす献げ物、いけにえ、十分の一の献げ物、収穫物の献納物、満願の献げ物、随意の献げ物、牛や羊の初子などをそこに携えて行き、あなたたちの神、主の御前で家族と共に食べ、あなたたちの手の働きをすべて喜び祝いなさい。あなたの神、主はあなたを祝福されているからである。(申 12:6-7)

家族に加えて、男女の奴隷、町のレビ人と共に、**喜び祝いなさい**と付け加えています。

ここでは厳粛な礼拝という形式は全くありません。お祈りするべき人は祭司だけで良いようです。皆で共に捧げたものを食べ、共に喜ぶというのが、モーセが教えた礼拝なのです。礼拝は「盛大な宴会」のような形ではないかと想像してしまいます。モーセは常に嗣業の土地のないレビ人や、寄留者、孤児、寡婦に対する温かい配慮をするように命じています。

モーセの**信仰告白**(申 26:5-10)は、次の4点にまとめることができます。

- (1) 神が選ばれた私の先祖は、滅びゆく一アラム人であった
- (2) 神はエジプトでの虐待、重労働に苦しむ私たちの声を聞いて下さった
- (3) 神はエジプトから導き出し、しるしと奇跡をもって導いて下さった
- (4) 神は「嗣業の地」を与えるという先祖への約束を果たして下さった

モーセは、弱い、貧しい、無に等しい民を憐れまれて、とうとう、約束の地へと導かれた「出エジプト」の出来事は、神の恵みの現実だと実感しました。これが神の**啓示**であると信じた。啓示とは「神の神秘を神が愛するがゆえに具体的に示す」という宗教的な用語です。

モーセはそれゆえ、神の導きを決して忘れることなく、イスラエルの民は神の恵みを感謝し、それに応えて、神が与えた掟と法を守る誓約をすべきであると願いました。

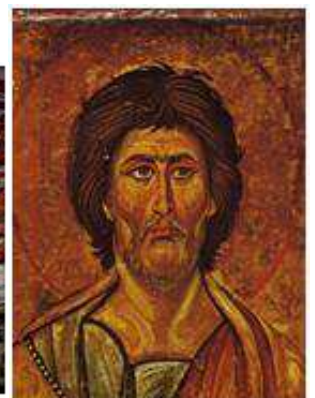
隠されている事柄は、我らの神、主のもとにある。しかし、啓示されたことは、我々と我々の子孫のもとにとこしえに託されており、この律法の言葉をすべて行うことである。(申29:28)



ファラオの娘の前のモーセ William Hogarth(1746)



民を率いるモーセ 古代シナゴグ壁画(シリア A.D. 245)



聖カテリナーナ僧院(シナイ)